

1 調査名称：都市交通社会実験の検討  
(彦根城周辺パーク・アンド・バスライド社会実験検討)

2 調査主体：彦根市

3 調査圏域：彦根市管内（彦根 IC～彦根城周辺）

4 調査期間：平成 29 年度～平成 31 年度

5 調査概要：

彦根市では彦根城を主体とした歴史都市として多くの観光客を迎えている。特に、観光シーズンにおいては、彦根 IC から彦根城周辺にかけて交通渋滞が激しく、市民生活にも支障を来している状況にある。

また、本市においても今後、人口減少社会に転換し少子高齢化社会はさらに厳しくなることを予想しており、公共交通の重要性を認識し、自動車交通からの転換を目指しているところである。

さらに、平成 36 年度には滋賀県において第 79 回国民スポーツ大会<sup>※</sup>と第 24 回全国障害者スポーツ大会の開催が予定されており、その主会場が彦根市となっていることから、交通渋滞の課題はより大きくなることが懸念されている。

このような課題の解決に向けて、平成 28 年度には彦根市都市交通マスタープランを策定したところであり、重点戦略に位置付けている「パーク・アンド・バスライド駐車場の新設および彦根城周辺を結ぶシャトルバスの運行」（以下「パーク・アンド・バスライド」または「P&BR」という場合がある。）について、効果的な実施形態を検討するため、平成 29 年度、平成 30 年度に引続き社会実験を実施し、本格実施への検討資料としたいと考えている。

ついては、平成 29 年度、平成 30 年度に引き続き社会実験に取り組むものである。

※2023 年から「国民体育大会」は「国民スポーツ大会」に名称が変更されます。

## I 調査概要

- 1 調査名称：都市交通社会実験の検討  
(彦根城周辺パーク・アンド・バスライド社会実験検討)
  
- 2 報告書目次
  1. 業務概要
    - 1-1 業務名称
    - 1-2 業務の対象
    - 1-3 業務期間
    - 1-4 業務の目的
    - 1-5 実施フロー
    - 1-6 実施方針
  2. 平成31年(春)社会実験の事後検証及び今後の方針検討のための課題、対応方策案
    - 2-1 実施内容
    - 2-2 これまでの実験から変更・追加した施策
    - 2-3 社会実験結果
    - 2-4 社会実験(春)の事後検証による今後の方針検討のための課題、対応方策案
  3. これまでの社会実験による課題と対応案
  4. 今後の社会実験、本格実施に向けた企画検討
    - 4-1 全体スケジュールと施策案
    - 4-2 今後の社会実験、本格実施に係る今後の方針
    - 4-3 社会実験(中・長期)の構想(参考)
  5. 協議会の事務局支援

## 資料編

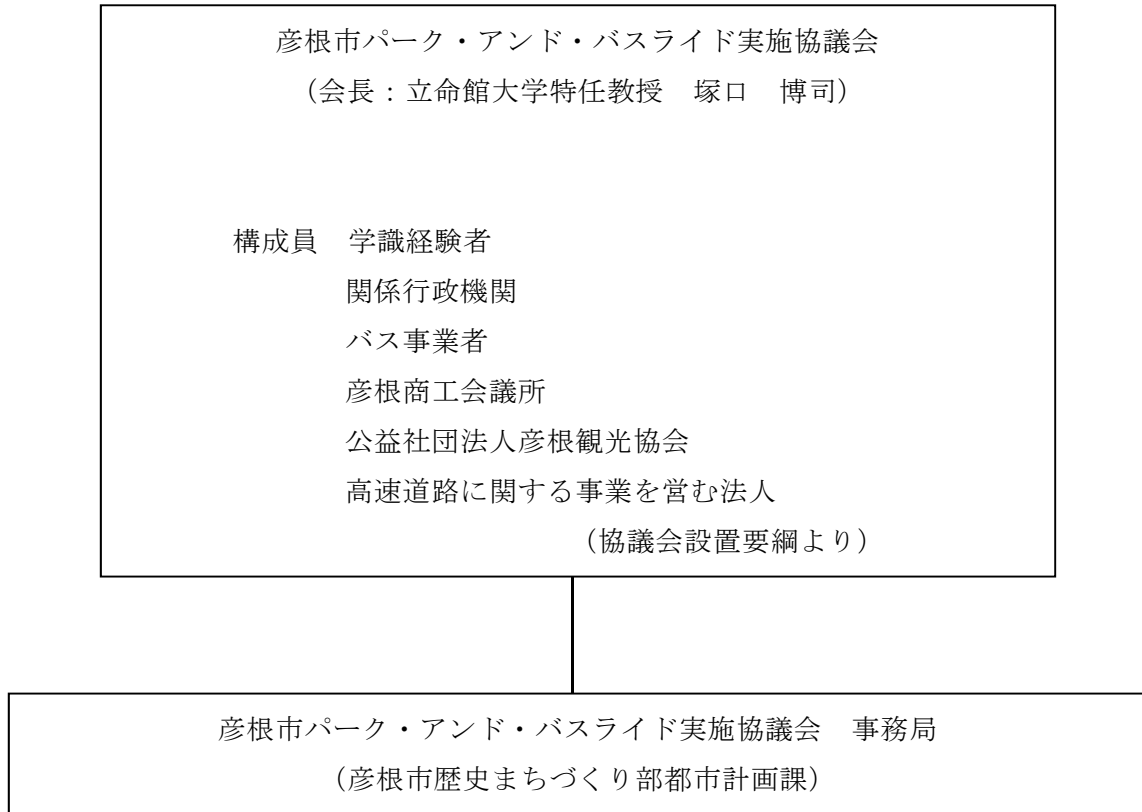
- 1 交通量、アンケート調査計画書
- 2 道路の使用許可申請書
- 3 看板取付工事完了報告書
- 4 アンケート調査結果報告書
- 5 交通量等調査結果報告書

## 協議会資料

社会実験結果概要版

社会実験状況写真

### 3 調査体制



#### 4 委員会名簿等：

##### 彦根市パーク・アンド・バスライド実施協議会委員名簿

##### ■ 委員 11名

番号	選出区分	氏名	職	備考
1	学識経験者（3名）	塚口 博司	立命館大学理工学部 都市システム工学科 教授	会長
2		轟 慎一	滋賀県立大学環境科学部 環境建築デザイン学科 准教授	
3		林 宰司	滋賀県立大学環境科学部 環境政策・計画学科 准教授	
4	関係行政機関（4名）	中治 茂	国土交通省近畿地方整備局 滋賀国道事務所 計画課長	
5		酒井 敏一	国土交通省近畿運輸局 滋賀運輸支局企画輸送・監査課長 首席運輸企画専門官	
6		中島 智史	滋賀県湖東土木事務所 所長	
7		山口 隆	彦根警察署 交通課長	
8	バス事業者（1名）	北村 真治	湖国バス株式会社 取締役業務部長	
9	彦根商工会議所（1名）	志賀谷 光弘	彦根商工会議所 専務理事	
10	公益社団法人 彦根観光協会（1名）	馬場 稔	彦根観光協会 専務理事	
11	高速道路に関する事業を営む法人（1名）	大市 博文	中日本高速道路株式会社（NEXCO 中日本） 名古屋支社彦根保全・サービスセンター 総務企画（企画）担当課長	

## II 調査成果

### 1 調査目的

本市では、観光シーズンにおいて彦根 IC から彦根城周辺にかけて交通渋滞が激しく、市民生活にも支障を来している状況にあるが、平成 36(2024)年には彦根城に隣接する（仮称）彦根総合運動公園（現在の彦根総合運動場）において、第 79 回国民スポーツ大会\*と第 24 回全国障害者スポーツ大会が主会場として開催されることから、交通渋滞の課題はより大きくなることが懸念されている。

このような課題の解決に向けて、本市では彦根市都市交通マスタープランを策定したところであり、その重点戦略である「パーク・アンド・バスライド駐車場の新設および彦根城周辺を結ぶシャトルバスの運行」（以下「パーク・アンド・バスライド」または「P&BR」という場合がある。）について、効果的な実施形態を検討するため、平成 29 年度、平成 30 年度に引続き社会実験を実施する。

※2023 年から「国民体育大会」は「国民スポーツ大会」に名称が変更されます。

## 2 調査フロー

業務全体の実施フローと今年度報告の範囲を示す。

【      . . . 今年度報告の範囲 】







## 4 調査成果

### 4-1 社会実験の概要

#### ■当パーク・アンド・バスライドについて

彦根インターチェンジから彦根城までの慢性的な交通渋滞の緩和や観光客の周遊等を目的に、自家用車から専用バスに乗り換えて目的地まで向かう「パーク・アンド・バスライド社会実験」を3回目の社会実験として実施した。



#### パーク・アンド・バスライドとは

マイカーを専用駐車場に止め、専用バスに乗り換えて目的地まで向かうことをいう。

#### 実施のメリットは

利用者にとっては、混雑する可能性の高い道路はバスに乗り、彦根城など目的地側での駐車場探しや、入庫待ちの心配等を解消することができます。また、地域にとっては、これらの“うろつき交通”等が減り、自動車交通の流れがよりスムーズになることが期待され、また、観光周遊の活性化を期待することができる。



## 4-2 実施内容

実施日	平成31年4月4日(木)、5日(金)、6日(土)、7日(日)、 13日(土)、14日(日)、20日(土)、21日(日)の計8日間
インター前駐車場 開設時間	8:30~18:00
バス運行時間	【行き】彦根城方面 9:00始発 【帰り】インター前駐車場方面 17:15最終便

### 実施日



#### 4-3 社会実験の結果

##### ■利用者数・駐車台数

過去2年と比較すると大幅に利用者が増加した。

城周辺駐車場の駐車台数を加えた全台数 1045 台の約 23%に相当しており、城周辺の交通混雑、道路混雑の低減に寄与した。

	2017 (秋)	2018 (秋)	2019 (春)
延べ利用者数	1,275人	1,422人	2,356人
最大日利用者数	525人	621人	702人
インター前駐車場 延べ駐車台数	(計測なし)	570台	876台
インター前駐車場 駐車台数 (時間最大)	171台 (14時台)	190台 (12時台)	206台 (12時台)

表. 社会実験の全体概要 (平成 31 年(春)) (朱文字はイベント日)

	4/4 (木)	4/5 (金)	4/6 (土)	4/7 (日)	4/13 (土)	4/14 (日)	4/20 (土)	4/21 (日)
天気 (現地、各日確認)	晴れ	曇り	晴れ	晴れ	晴れ	曇り雨	晴れ	曇り
最高気温 (気象庁データ)	15℃	20℃	17℃	19℃	16℃	14℃	19℃	22℃
イベント	桜まつり	桜まつり	桜まつり	桜まつり	桜まつり	桜まつり	—	—
インター前バス乗車数 (パーク・アンド・バス ライド利用者数) (下段:累計)	62人 (62人)	74人 (136人)	595人 (731人)	702人 (1,433人)	642人 (2,075人)	114人 (2,189人)	73人 (2,262人)	94人 (2,356人)
インター前駐車場の 駐車台数 (計算値・時間最大)	17台	22台	183台	206台	204台	29台	18台	31台
インター前駐車場の 駐車台数(延べ台数) ※	24台	28台	265台	272台	284台	58台	30台	43台

(※満車により駐車できなかった台数を含む)

(4/21は、二輪車12台を含む)

##### 平成 31 年(春)社会実験の全体概要

平成 31 年(春)社会実験で実施された 8 日間の累計利用者数は、2,356 人となった。

桜まつり期間中の桜が満開の土曜日・日曜日 (4/6、4/7、4/13) は、多くの利用者がみられ、特に 4 月 7 日(日)のインター前バス乗車数は 702 人と、昨年のピーク (ご当地キャラ博 10/21 : 621 人) を超える利用者となった。

一方、桜まつり期間でなく桜が満開でない時期 (4/4、4/5) や、桜まつり終了後 (4/20、4/21) は、100 人未満と利用の少ない結果となった。



■バス乗車客（インター前駐車場）



■待合環境の状況（インター前駐車場）



■バス降車客（インター前駐車場）

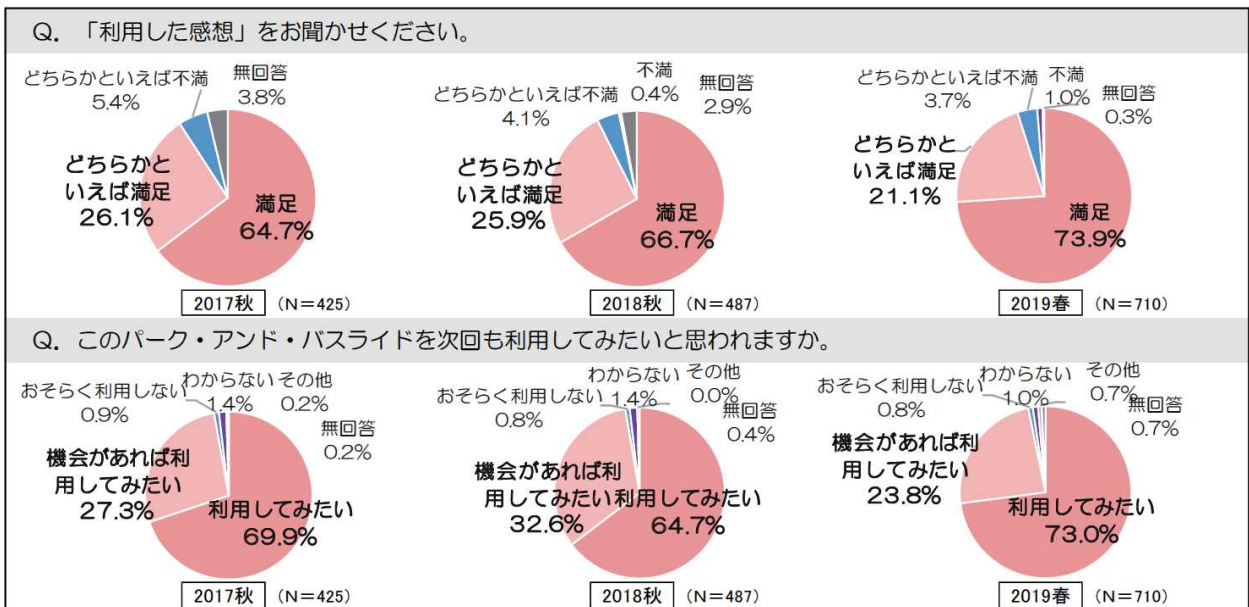


■いろは松駐車場の状況

#### 4-4 アンケート調査の結果

##### ■利用者の感想（パーク・アンド・バスライド利用者アンケート）

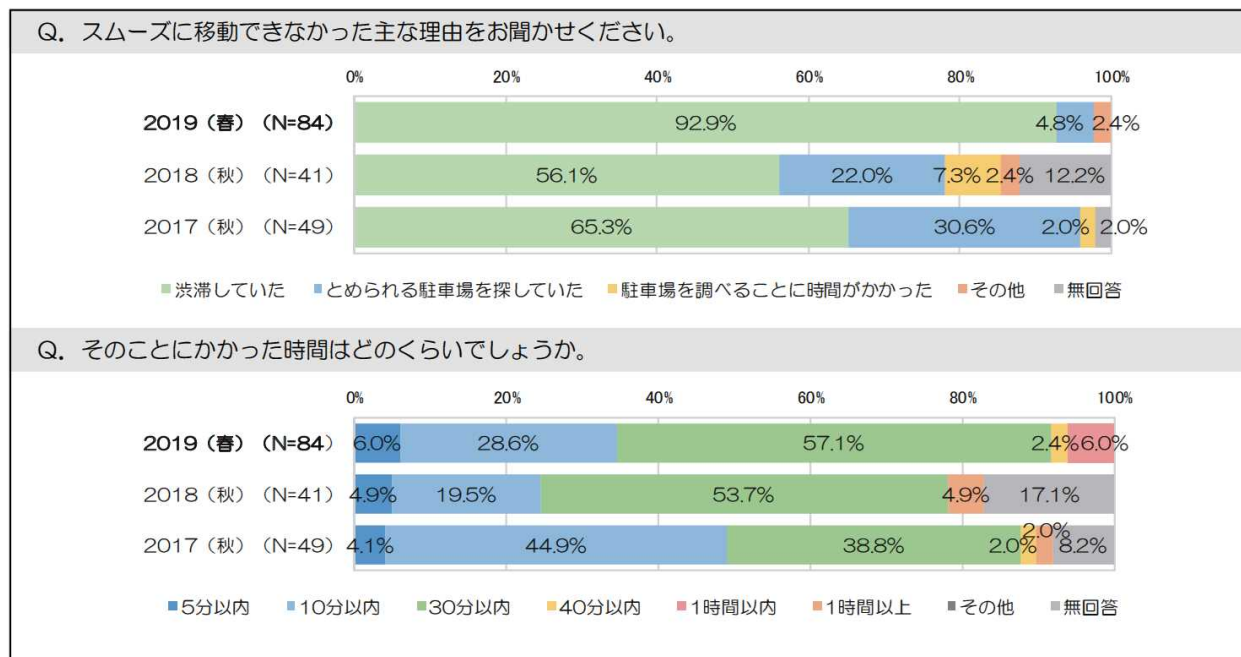
利用したほとんどの方から「満足」、「次回も利用してみたいと思う」と回答をいただいた。



■城周辺駐車場に自家用車を停めた方の状況（一般駐車場利用者アンケート）

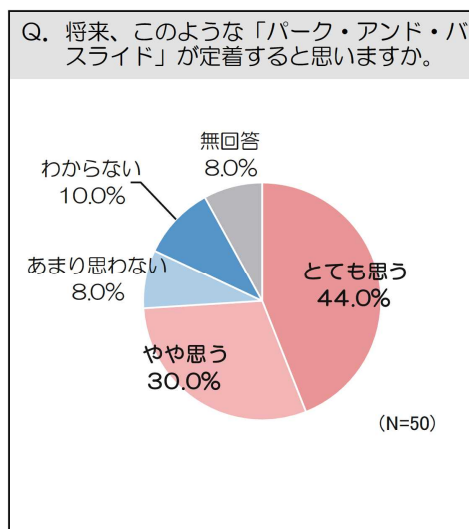
城周辺の駐車場に車を停めた方（当パーク・アンド・バスライドを利用しなかった方）で、スムーズに移動できなかった理由は「渋滞」のほか、「駐車場を探していた」「駐車場を調べていた」ことにより時間がかかっていることがわかりました。

この傾向は、2019年春が最も顕著となっています。



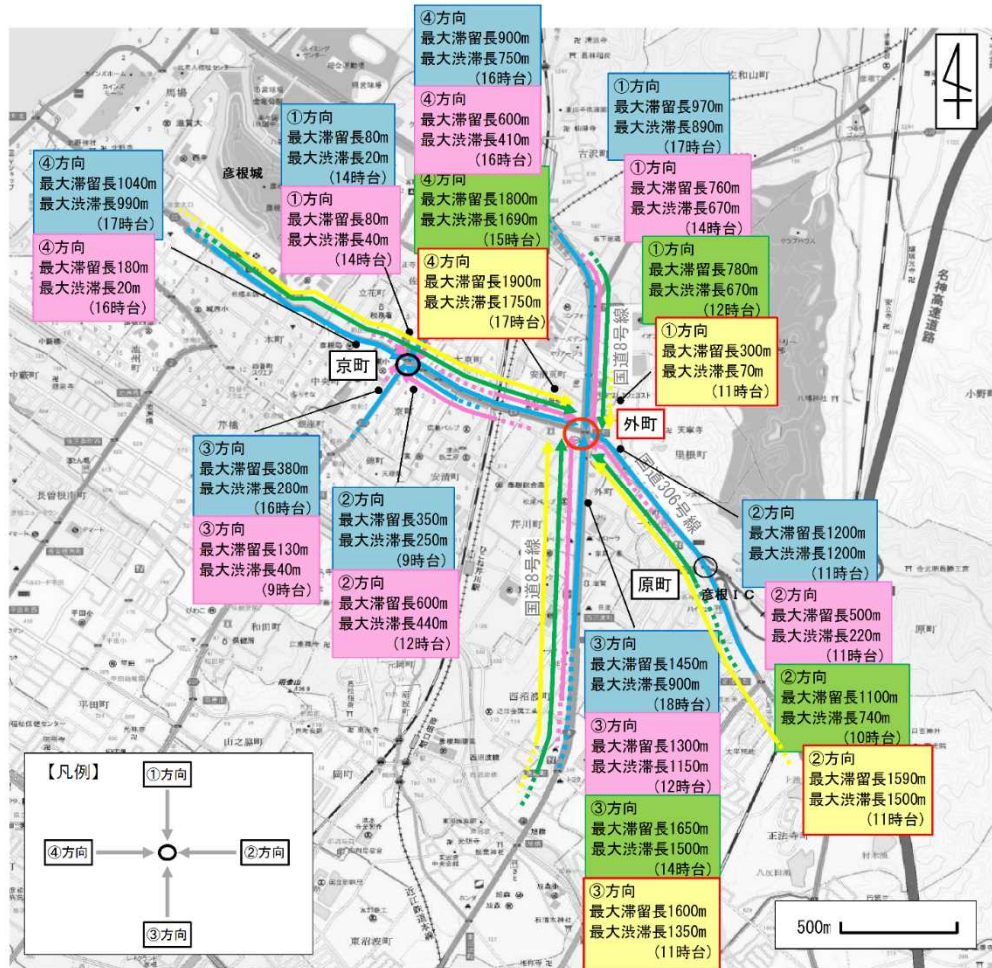
■近隣商店街事業者の印象（近隣商店街事業者アンケート）

近隣商店街事業者のほとんどの方が「当パーク・アンド・バスライドが定着すると良い」と回答しています。



4-5 社会実験の効果（交通面）

図中の黄色で示した線が、平成31年(春)(4/6(土))の計測値である。これを見ると、図中の赤枠に示す外町交差点の最大渋滞長は、②方向（彦根IC→彦根城方面、11時台に発生）、④方向（彦根城→彦根IC方面、17時台に発生）ともに、これまでの計測結果と比較すると、長くなる結果となった。これは春の季節の来訪者が多く、桜まつりによる彦根城内の車両通行禁止等が影響していると考えられる。



■彦根IC～彦根城へのアクセス時間

条件にもよるが、混雑時にパーク・アンド・バスライドを利用すれば、5分ほど早くアクセスできる結果となった。



(彦根ICを出た地点から彦根城表門橋の地点まで到達する所要時間を計測した平均値。バス待ち時間、駐車場探しに要する時間はバス時刻表、アンケート結果等より設定した)

■ CO<sub>2</sub>の削減

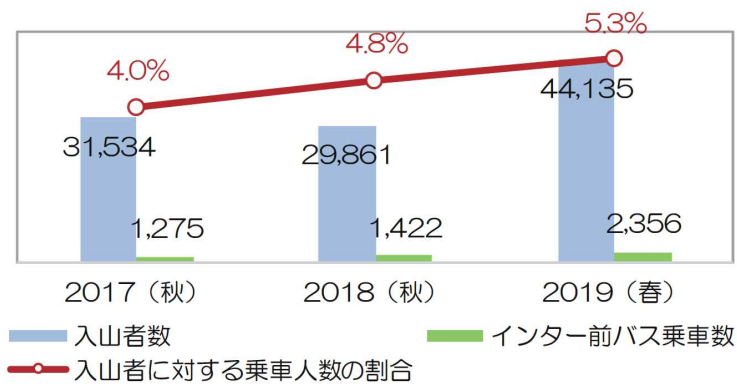
彦根 IC～彦根城の往復の約7 km を自家用車からバスに転換したことにより、1年間に杉の木約90本が吸収するCO<sub>2</sub>量に相当する1300kg-CO<sub>2</sub>（試算値）が削減され、2017、2018年と合わせると、杉の木200本が吸収する2800kg-CO<sub>2</sub>が削減されたことになる。



4-6 社会実験の効果（観光面）

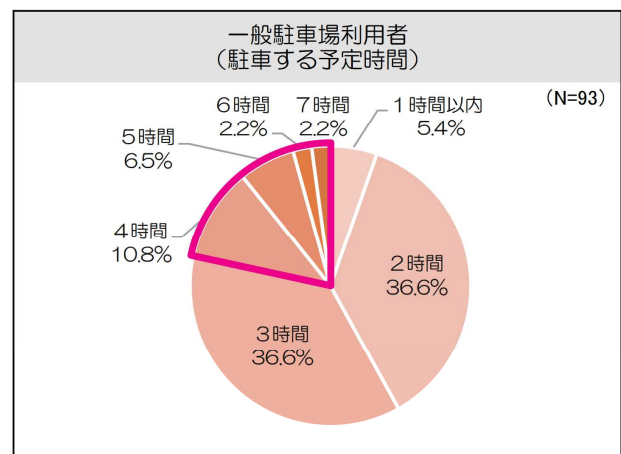
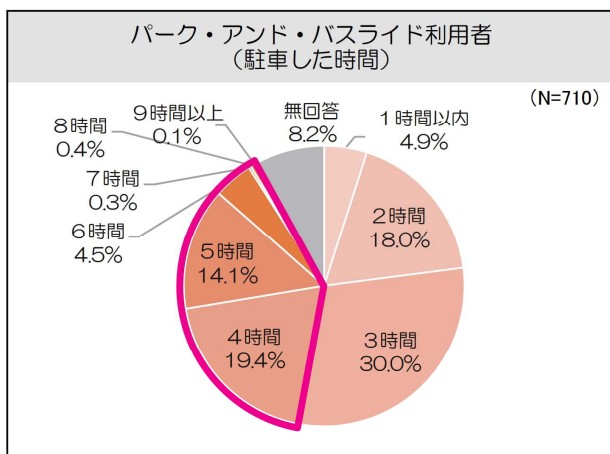
■利用者数（入山者数に占める割合）

パーク・アンド・バスライド利用者の入山者に占める割合は、実験の回を追うごとに高くなっている。



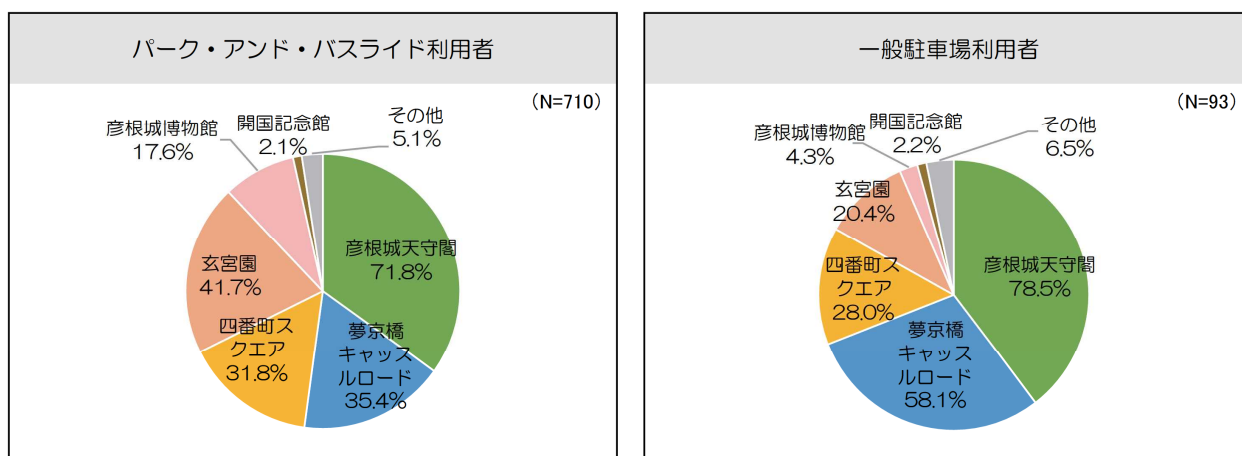
■ 駐車時間

パーク・アンド・バスライド利用者の方が、一般駐車場利用者より駐車時間が長くなっていることからパーク・アンド・バスライドを利用すると、滞在時間がより長くなる可能性があると考えられる。



## ■訪問場所

パーク・アンド・バスライド（P&BR）利用者のほうが、四番町スクエアや玄宮園を訪問する割合が高くなっている。

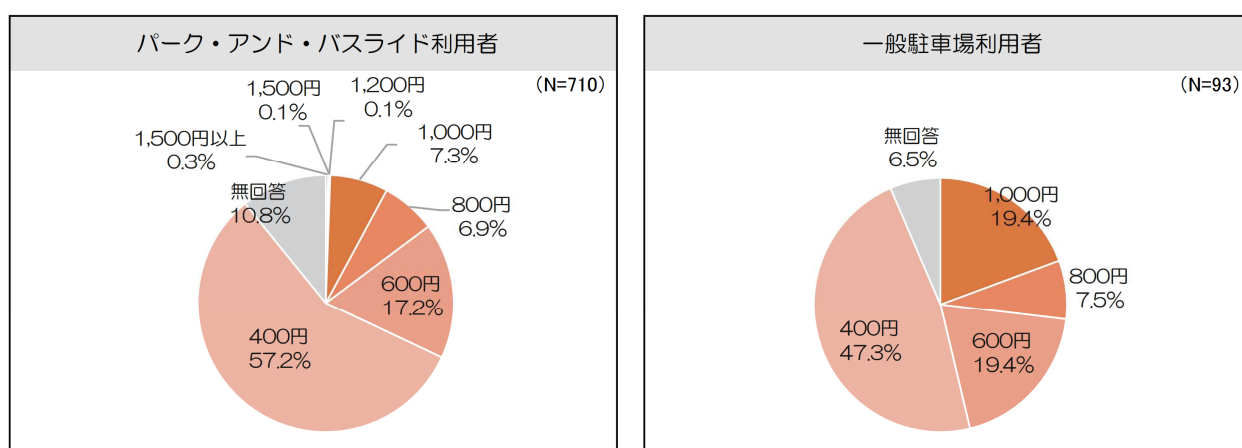


## 4-7 社会実験の結果（利用料金について）

これまで無料で実施している当パーク・アンド・バスライドについて、有料とした場合の料金についてアンケートを実施した。

その結果、1回につき400円から1,000円の範囲であればこのパーク・アンド・バスライドを利用すると答えた方が大半を占めた。

(2019年10月に城内駐車場の料金（普通車・1回）は、400円から1,000円に変わります。)





#### 4-8 社会実験のとりまとめ

2017年秋、2018年秋、2019年春と3回にわたるパーク・アンド・バスライド社会実験を実施し、次のような課題が抽出されました。

- ◆利用者が最も多い結果となったが、イベント等が無い休日の利用者は少ない状況がみられた。
- ◆これまで無料で実施している当社会実験について、本格実施に向けた有料化を検討し、事業の具体化を考察する必要がある。
- ◆観光促進に係る施策として、協賛店舗の充実等を図っていく必要がある。

パーク・アンド・バスライドの本格実施に向けて、このような課題を改善し、より良い運営システムを構築する予定です。



#### 【実施期間】彦根市

【協議機関】彦根市パーク・アンド・バスライド実施協議会

【協議会構成】学識（立命館大学・滋賀県立大学）／国土交通省（滋賀国道事務所・滋賀運輸支局）／滋賀県（湖東土木事務所）／彦根警察署／彦根商工会議所／彦根観光協会／NEXCO中日本／湖国バス(株)／彦根市

【事務局】彦根市役所 都市建設部都市計画課

【事務局支援】玉野総合コンサルタント

【協力】彦根ボランティアガイド協会